



「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」 の実現をめざして

本市は、世界をリードするものづくり産業の中核都市としての顔を持つ一方、市域のおよそ7割を森林が占め、四季折々に彩られる豊かな自然や農産物を実らせる田園が広がる恵み多き緑のまちとしての顔も併せ持っています。また、スポーツ、歴史、文化、芸術を始め、多様性、可能性を秘めた様々な地域資源を有しています。

本計画では、「つながる つくる暮らし楽しむまち・とよた」を将来都市像として掲げています。超高齢社会の進展や技術革新、社会経済の一層のグローバル化といった大きな時代の変化の中において、本市の多様な資源を生かすことで、市民の皆様がまちづくりに関わり、暮らしの楽しみや満足感にあふれるまちの実現をめざしてまいります。

今後、急激に変動する社会経済情勢や地方税財政制度の変更など、本市を取り巻く情勢は厳しくなることが予想されますが、これまで市民の皆様と培ってきました共働を基に、市民力、地域力、企業力、行政力をより一層生かした市政経営により、活力と魅力のある持続可能なまちづくりを進めてまいります。

最後に、計画の策定に当たり、多くの貴重なご意見をいただいた皆様に心から感謝申し上げますとともに、引き続き市政に対するご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2017年3月

豊田市長 太田 稔考

目次

■ 序 論

- 1 第8次豊田市総合計画の意義と役割 4
- 2 第8次豊田市総合計画の構成と内容 5

■ 計画の背景

- 1 豊田市の特徴 8
- 2 豊田市を取り巻く外部環境 12
- 3 豊田市が抱える脅威と発展の可能性 16

■ 基本構想

- 1 基本構想の意義 20
- 2 目標年次 20
- 3 まちづくりの基本的な考え方 20
- 4 豊田市の将来の姿 24
 - (1) 将来都市像 24
 - (2) めざす姿 26
 - (3) 将来人口 27
 - (4) 土地利用構想 28
- 5 基本構想の実現に向けて 34

■ 前期実践計画

総 論

- 1 実践計画の意義 38
- 2 実践計画の期間 38
- 3 前期実践計画の構成 39
- 4 人口フレーム 40
- (参考) 施策別ページの見方 42

重点施策

- 重点施策の趣旨 46
- 重点施策(1) 超高齢社会への適応 48
- 重点施策(2) 産業の強靱化 56
- 重点施策(3) 暮らしてよし・訪れてよしの魅力創出 64

基本施策

- 基本施策の体系 72
- 基本施策Ⅰ 子ども・子育て 74
- 基本施策Ⅱ 生涯学習 80
- 基本施策Ⅲ 健康・福祉 104
- 基本施策Ⅳ 安全・安心 122
- 基本施策Ⅴ 産業・観光・交流 140
- 基本施策Ⅵ 環 境 168
- 基本施策Ⅶ 都市整備 182
- 基本施策Ⅷ 地域経営 210

■ 計画実現のために

- 1 財政計画 222
- 2 計画の進行管理 224
- 3 計画の推進に当たって 225

■ 資料編

- 1 指標一覧 228
- 2 第8次豊田市総合計画(前期実践計画)と連動する部門計画一覧 252
- 3 計画策定の経緯 254
- 4 用語の説明 260

序 論

- 1 第8次豊田市総合計画の意義と役割 …… 4
- 2 第8次豊田市総合計画の構成と内容 …… 5

1 第8次豊田市総合計画の意義と役割

■意義と役割

第8次豊田市総合計画は、市民と行政が共に取り組むこれからのまちづくりの方向性を明らかにするための最も基本となる計画です。

本市は、1966年から7次にわたり市政経営の基本である総合計画を順次策定し、計画的なまちづくりを進めてきました。第7次豊田市総合計画は、2005年4月1日の近隣6町村との合併により都市構造が大きく変化したことに加え、少子化、高齢化といった社会環境の変化に的確に対応するため、第6次豊田市総合計画の計画期間を3年余り繰り上げる形で2008年3月に10か年の計画（基本構想10年、実践計画（前期5年+後期5年））として策定しました。

第7次豊田市総合計画では、期間内において2008年9月のリーマンショックをきっかけとした世界同時不況、2011年の東日本大震災という未曾有の大災害が発生する中で取組を推進してきました。

こうした中、ラグビーワールドカップ2019™日本大会や2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定したほか、2027年の開通に向けてリニア中央新幹線の建設が着工するなど、本市の今後のまちづくりを考える上で大きな影響をもたらすプロジェクトが進行しています。

また、本市においては、超高齢社会が現実のものとなり、基幹産業である自動車産業の分業構造が変化しつつあるほか、大規模自然災害の発生リスクの高まりや国の税制改正に伴う財政状況の変化など、大きな転換期を迎えています。

そこで、社会経済情勢の大きな転換期においても、未来に明るい希望を持つことができる持続可能なまちづくりを進めていくために、第7次総合計画の期間を1年余り残していますが、新たな総合計画として第8次豊田市総合計画を策定することとしました。

第8次豊田市総合計画は、第7次の計画とは大きく異なり、リニア中央新幹線の開通を始め、団塊の世代が後期高齢者となるのに続き、団塊ジュニア世代も高齢化を迎えるといった今後訪れる大きな社会の変化に対応するため、長期的な展望の下に本市のめざす姿を明確にし、その実現に向けたまちづくりを計画的に進めることを目的に、バックカスティング^{※1}型の計画としています。

また、社会経済情勢の変化に対し、より機動的かつ柔軟に対応し、限りある経営資源を重要度の高い政策課題に対する施策や投資効果の高い施策に優先的に配分できるよう、重点的な取組項目を明確化することで戦略的な施策の推進に努めてまいります。

用語解説

※1 バックカスティング：未来を予測する際に、現状にとらわれず、目標となるような社会の姿を想定し、そこを起点に現在を振り返って今何をすべきかを考える方法

2 第8次豊田市総合計画の構成と内容

■構成と内容

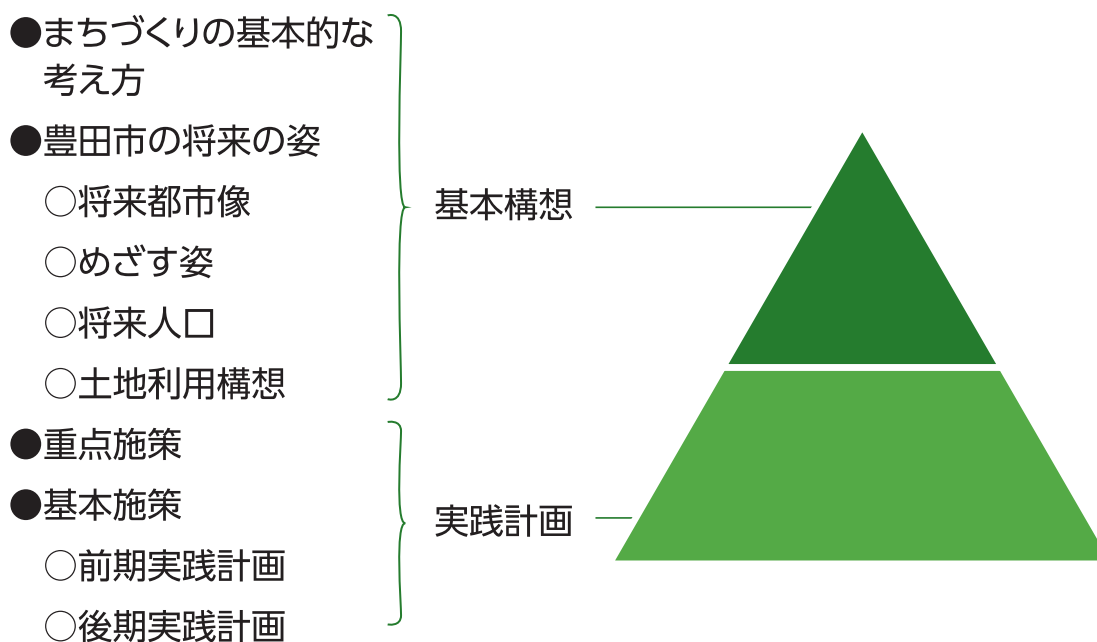
第8次豊田市総合計画は、長期的な展望による普遍的なまちづくりの方向性を定める基本構想と、それを実現するための施策等を明らかにし、社会経済情勢の変化に対し、より機動的かつ柔軟に対応する実践計画の二層構造とします。

基本構想は、2040年を展望し、将来都市像、めざす姿、将来人口及び土地利用構想を示します。

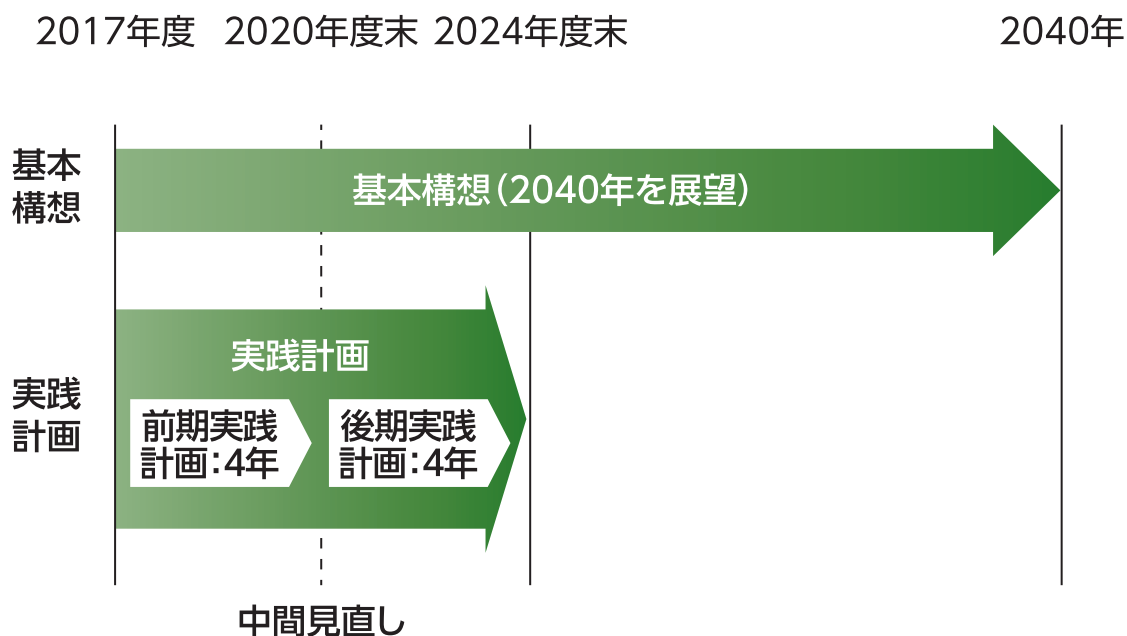
実践計画は、基本構想に掲げるめざす姿の実現に向け、今後8年間で進める具体的な取組を「重点施策」及び「基本施策」として示します。さらに、行政評価制度を運用し、施策を進行管理していきます。

なお、第8次豊田市総合計画では、定常的な継続業務などについて詳細な記載はしませんが、通常業務として必要なことは適切かつ着実に実行していきます。

■第8次豊田市総合計画の構成



■第8次豊田市総合計画の期間



■第8次豊田市総合計画における目標設定

本計画は、長期目標としてのめざす姿を掲げ、そこを起点に現在を振り返り、短期(4年後)、中期(8年後)に実現する目標を設定したバックキャスト型の計画としています。

